

白山ふるさと文学賞

第七回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【暁烏敏部門】〈作文「母へのおもい」〉

小学生5・6年の部 最優秀賞

# ぼくのお母さん

松任小学校五年

紺村 こんむら

遙希 はるき

ぼくのお母さんは明るくておもしろく、思いやりのある人です。家族といっしょにいる時もそうだけど、お母さんの友達や近所の人、お店の人、子どもなどと話す時も、いつも明るく笑顔で接しています。だから相手も楽しそうに話しているように見えるし、自然と笑顔になっていく気がします。家では、ぼくがふざけたことをしたり言ったりすると笑ってくれるので、いつも二人で大爆笑してしまいます。いっしょにテレビを見ていてもお母さんがおもしろいつっこみをするので、ぼくもつい笑ってしまいます。

今日はぼくがあまり宿題をする気が起きなかったので、だらだらして、「耳から血、出てきたあ。」  
と言うと、

「もう、赤い血でも青い血でもいいから早くしなさい!!」  
と言われたので、思わずふき出してしまいました。いつもこんな感じなので、ぼくの家は笑いが絶えません。そんなお母さんといえるからか、ぼくも段々おもしろいと言われるようになってきました。

そしてお母さんは、スイミング教室でレベルが上がったり、学校のテストで百点をとると、

「良かったじ！ おめでどう!! よくがんばったね。」

と、しつかりほめてくれます。スイミングの帽子の色が変わった時には外食に連れて行ってくれたり、パフェを食べさせてくれます。テストに合格できずにくやしがつっていると、

「おしかったね。お母さん、ちゃんと上から見とるから、来月またがんばろう!!」

と励ましてくれます。習字教室も同じで、いつもお母さんがほめてくれたり励ましてくれたから、習い始めて一年四か月、毛筆初段に合格することができたのだと思います。

そんなお母さんは、ぼくのために、真剣にしかつてもくれます。例えば、ぼくが幼稚園の時、友達とけんかをしてお互いにたたき合ってしまった

たことがあります。その時は、ただダメと言うのではなく、どうしてダメなのかをしっかりと説明して、

「自分がされていやなことを、相手にするもんじやない!!」

と真剣にしかつてくれました。また、スイミングのコーチの指導がきびしくて行くのをぐずっていると、

「いつまでもそんなこと言っていないで、やる時はきちんとやりなさい!! 練習がきびしいのはみんないっしょ! がんばって行ってきなさい!!」  
と言って、しかったり励ましてくれます。だから四年十一月ががんばってこれたのだと思います。他にも、スイミングのバスハイキングに行くのをいやがっていると、

「行く前から楽しくないとか決めつけんと、まずは参加してみまっし。行ったら新しいお友達もできるし、色んな人と交流してみなさい。楽しい思い出もいっぱいできるよ!」

と言われて、いつもきん張しながら行くけど、お母さんが言ったとおり、行ったら毎回すごく楽しくて、コーチや他の学校の友達とも沢山話したり遊んだりして帰って来ます。

それから、はずかしくてあいさつが大きな声でできなかったり、時間割り合わせやえん筆けずりを忘れてしまった時は、ただ注意するだけでなく、

「同じあいさつをするなら、相手に聞こえるように言わんと、しないのと同じだよ。」

と言ってくれたり、大事なことを忘れてしまったら自分が困るということ、そしてどうして困るのかをぼくに考えさせて、その後きちんと理由を説明してくれます。

お母さんは明るくておもしろく、思いやりのある人です。ぼくががんばった時には、ほめるだけではなくいっしょに喜んでくれます。そして、ぼくにやる気が起きない時やすぐにいやだと思ってしまうときには、ぼくのために真剣にしかつたり、励ましてくれる人でもあります。後で考

えると、ぼくのことをすごく考えて言ってくれているのが伝わってきます。これからは、いちいちスイミングやバスハイキング、習字に行くのをいやがらず、少しずつ、お母さんを困らせたりしかられたりする回数を減らしていきたいと思います。そして、大事なことを忘れないように気を付けたり、あいさつもすっかりできるようにしていきたいです。

ぼくもお母さんのように、周りの人を笑顔にできるように、明るくてももしろい人になりたいです。そして、元気がない人がいたら、話を聞いて励ましてあげられるような人になりたいです。

